

UMIN 35 周年によせて

UMIN センター（臨床・疫学研究担当）

横山 克彦

大学病院医療情報ネットワークセンター（UMIN センター）が、設立 35 周年を迎えられましたことに心よりお慶びを申し上げます。

医療情報の世界で UMIN センターは常に時代に即した方向性を打ち出し、医学・医療分野における必要なサービスを提供してまいりました。これらの功績は、歴代 UMIN 運営委員長・センター長のたゆみない努力の賜物にほかなりません。また、現行サービスの向上・安定稼働に努め、そして今後求められる先端の医療情報に対するサービスの新たな提案・開拓・開発・運用が UMIN センターの使命に感じます。今回、UMIN 設立 35 周年という大きな節目に、UMIN センターの事務局スタッフとして迎えることができたことを大変光栄に思います。

UMIN センターでは医学・医療関係者向けのサービスを多岐に展開しているため、提供サービス毎に担当者を決めており、より迅速に効率よくサービスの管理・運用ができるよう努めております。私は UMIN センターのサービスの中で「研究」に位置付けられている「INDICE（インターネット医学研究データセンター）」と「UMIN-CTR（UMIN 臨床試験登録システム）」を担当しておりますが、正直、在籍して 10 年以上経過していますが、いまだに日々勉強の毎日です。入職したときなどは自分が経験したことのない事柄を扱うサービスでしたので、右往左往しながら酷いものでした。毎日、皆に迷惑をかけたことを思い出します。支えていただきました方々には感謝しかありません。

さて、担当させていただいている INDICE（インターネット医学研究データセンター）は、現在「Standard」「Cloud」の 2 つのシステム構成で提供を行っております。このサービスは、研究者が主導の学術研究として行なわれる臨床・疫学研究の症例登録（割付）、データ収集を支援する目的で 2000 年より提供が開始され、「INDICE Standard」は汎用システムを使用することにより、プロジェクトごとに独自のフォームレイアウトを低価格でシステム開発することが可能です。これまでに計 266 の研究プロジェクトにおいてご利用いただいておりますが、すでに半数ぐらいは研究が完了してプロジェクトを終了されておられます。しかし、10 年、20 年と変わらずにご支援、ご協力をいただいているプロジェクトもあり、本当にありがたく思います。

日本においても臨床研究が重要視されてきたことを受け、利用が増えている分野でもありますが、プロジェクトにより予算面や規模の違いも見受けられます。そんな折、提供を開始したのが「INDICE cloud」です。こちらは既定のフォーマットでのフォームであり、複雑な設定は行えませんが、割付登録や症例報告などのフォームを無料で作成することがで

きますので、予算を掛けたシステムより手間はかかりますが、十分に使用いただけるシステムではないかと思えます。また、医師だけではなく、企業の方がプロジェクトの事務局やDM業務を行いやすいよう UMIN ID の取得制限の緩和を行うことにより、2017 年に提供を開始してから年々利用者も増えて、今現在 1,000 を超えるプロジェクトの作成が行われました。システムの仕様上、対象の研究に利用出来るか出来ないかはさて置いて、多くの方々に興味を持っていただいたことに感謝いたします。INDICE cloud システムの開発には当初より関わっており、設定通りの処理が行われているか、想定通りの動作であるかなどテスト登録に多くの時間を費やしたことを思いだすと感慨深いものがあります。

UMIN センターのサービスを私自身が利用者として使用する機会がないため、利用者様からのサービスに対する問い合わせや意見は大変貴重な情報です。今後も日本の医療発展に比例して UMIN センターで提供するサービスもまだまだ増えてくることと思えます。ご意見やご要望等に真摯に向き合いながら、より良いサービスの提供をしていくことで全国の医学・医療関係者を支援・貢献できるのではないかと考えております。UMIN センターのよりいっそうのご清栄をお祈り申し上げます。